

環境エネルギー学科シンポジウム

(2011年 11月 16日)

環境エネルギー学科開設記念シンポジウムが11月16日仙台市のエルパークで開かれました。今回は、「循環型社会の夢を語ろう-エコロジーはエネルギーのために、エネルギーはエコロジーのために」というテーマで、第1部では慶応義塾大学経済学部教授の金子勝氏、特定非営利活動法人環境政策エネルギー研究所理事、主席研究員の松原弘直氏を講師におむかえ、基調講演を行いました。続く第2部では、基調講演の講師お二人に加え、宮城県環境生活部環境政策課長の高橋平勝氏と東北工業大学の宮本裕一教授、山田一裕教授の5名によるパネルディスカッションが行われました。



会場の様子



総合司会 内田 准教授

金子氏からは、今後の危機管理の政策立案をする場合、どのような人間社会の価値観から行うのかを考慮する必要性、原子力発電のコストは極めて高いものであるという認識の必要、再生可能エネルギーの転換を通じて経済危機を乗り切っていくという大胆な考え方に立たなければならない、という3つの観点から今後の社会を構築していくことの重要性が示されました。



金子 勝 氏

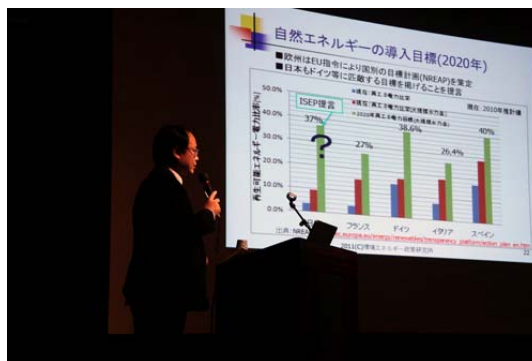


基調講演の様子(金子氏)

松原氏からは、自然エネルギーへの大転換の必要性が示されました。そのためには、「長期ビジョンからバックキャストिंग、指標の活用し、持続可能性を計る、国内外の動向や成功事例を知る、国の環境エネルギー政策を変える、エネルギー需給の仕組みを変える、自治体の環境エネルギー政策を変える、自然エネルギーを選択し、利用する、自然エネルギーの事業を増やす」という具体的な提言を頂きました。



松原 弘直 氏



基調講演の様子(松原氏)

パネルディスカッションでは、宮城県環境生活部環境政策課の高橋平勝課長より、宮城県内のクリーンエネルギー導入を支援する取組などの紹介を頂き、5名のパネリストによるディスカッションを行いました。今後の「環境エネルギー学科」は期待することとして、松原氏から「技術のみならず、理系の学生にも社会全体の仕組みを理解できる人材の育成を期待したい。」、高橋氏は「異分野の融合、そして復興と将来を担う人材の育成」への期待、金子氏からは「新しい産業を創っていく先端的、シンボリックな学科・人材の育成と、東北のセンター的役割を担ってほしい。」との期待が寄せられました。



コーディネーター 小祝 准教授



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッション後の質問セッションでは、再生エネルギーへの転換に伴い歴史観、文化観の転換、県・工大などの連携、今後の原子力政策について質疑が交わされ、活発な議論となりました。皆様のご清聴に感謝申し上げます。